

## 保育者養成課程におけるピアノ初心者のピアノ技能向上に関する研究

## The Improvement in Beginner's Piano Skill at the Nursery School and Kindergarten Teacher's Training Course

杉 山 祐 子  
Yuko SUGIYAMA

本研究の目的は、保育者養成課程におけるピアノ初心者のピアノ技能を習得させる際の課題を明らかにすることとした。調査1では、保育者に必要なピアノ技能を把握するために、保育現場の保育者32人に、ピアノ技能の重要性和保育者が抱えるピアノ技能の課題についての質問紙調査をおこなった。調査2・3では、保育者養成課程の学生のピアノ技能の実態と学習方法を把握するために、保育者養成課程の1年生105人に質問紙調査をおこなった。調査1において、ピアノ技能は活用頻度の多さ、情操教育への有効性、楽器の応用範囲の広さにおいて、保育現場ではピアノ技能が重要視されていることが分かった。保育士になってからのピアノ技能の課題として、継続的な練習の必要性や、ニーズに合わせた応用力を身につけることであった。調査2・3では、保育者にはピアノ演奏が欠くことのできない技能であるにも関わらず、保育者養成課程でのピアノ初心者の割合は高く、読譜、テクニックなど技能的課題が多いことが分かった。したがって、それらの課題を解決するために、自主練習時の新しい学習法の検討が必要と考える。

キーワード：保育者養成課程      ピアノ技能      初心者

## I. 問題

## 1. 保育者に必要な音楽技能

保育者養成課程では、保育者を目指す学生の技能として音楽は欠かせないものと考えられている。保育者に必要な音楽技能とは、東(2000)は、保育の流れで適切に音や音楽を活かす感性が大切で、子どものあそびを広げることができる技術であると述べている。新海(2008)は、保育者自身が音楽表現を楽しむこと、子どもたちと楽しさを共有できることと述べている。このように、保育者に必要な音楽技能はピアノに限らず、幼児の発達や生活、教育に密着した広範囲な音楽を有効に提供できる技能と思われる。しかし、保育者養成課程での音楽の授業時間は限られており、古川(1999)が言うように、各養成校ではピアノ技能習得を主としたカリキュラムが組まれている場合が多い。木村(2009)は、教員養成課程及び保育者養成機関での音楽教育がピアノを無視しては通ることができない、ピアノを通じての学習というものが必須の事項であることは、現今改めて論をまたないところであると述べている。ピアノを通じた音楽全般の学習との見方は、ピアノ技能習得をピアノ演奏技術に加え、幅広い音楽知識の習得と捉えられているからである。楽典、ソルフェージュ、聴音などは、ピアノ技能習得の中で網羅できるよう、保育者養成課程では授業が工夫されている(柏瀬他,1976)(森田・久野2008)。ピアノ技能習得を主とした理由のもう一つに、保育者採用試験対策も見据えている。保育者採用試験でピアノ実技試

験を課している保育機関は多い。採用試験時のピアノ実技の有無に関する調査報告から、2008年度で72.6%、2009年度58.8%の保育機関でピアノ実技が課せられていた(表1)。採用試験でのピアノ実技は、保育に必要とされる音楽の能力を知る尺度として用いられている。大谷他(2004)は、依然としてピアノ技能の高い学生が採用試験に有利である傾向は変わらない、と述べている。泉谷(2006)は、現場では保育者養成課程でのピアノ技能習得に寄せる期待は大きいと述べている。このように、学生と現場の双方とも、ピアノ技能習得の必要性を重視している。

表1. 保育機関採用試験時のピアノ実技の有無

	保育機関数	有	無
2008年度	62	45 (72.6)	17 (27.4)
2009年度	68	40 (58.8)	28 (41.2)

( )内の数字はパーセント(%)

## 2. 保育者養成課程で習得すべきピアノ技能

保育者養成課程で目標にすべきピアノ技能とは、一般的なピアノ技能で求められる、ある程度の年月をかけた技術の積み重ねに対して、磨きあげられ向上していく技能を指す。小林(1988)は、ピアノを弾く基本的なテクニックはやはり小さい時から学習していないと身につかないのはたしかで、大人になってから始めた外国語が母国語にはなり得ないのと同じであると述べている。しかし、ピアニストではなく保育者として子どもと関わる職

業でのピアノ技能としては、杉山(1989)は、音楽そのものの意味や美しさを子どもたちに伝える手段としてのピアノ技能でなくてはならないとしている。また小倉(2010)は、ピアノ演奏の技術を習得し、情操豊かな人間性を身につけることであると述べている。幼稚園と保育所の両現場におけるピアノ演奏の位置づけとして、丸山(2003)によれば、幼稚園でのピアノ演奏は音楽教育の一環であり、ピアノとともに歌う、表現するという活動としている。これに対して保育所におけるピアノ演奏は、音の流れといういわば雰囲気づくりのためであろうと分析している。具体的に、ピアノ演奏が保育現場でどのように認識されているかを知ることによって、保育者養成課程で習得すべきピアノ技能がより明確になると考える。

### 3. 保育者養成課程の学生の実態

保育者養成課程では、入学試験にピアノ技能を課していないため、ピアノ演奏の経験がさまざまな学生が入学している。保育者養成課程の入学時のピアノ技能に関する先行研究は、1年生の約6割が初心者(兎束、1996)、1年生の45%がピアノ未経験者(高御堂他、2010)、1年生の44%が初心者に該当(平松、2010)などの報告がある。このような報告が行われていることは、初心者の存在が授業形態や教員の教授法に影響を与えているからであろう。以上のことから、指導の対象となる学生の実態を正しく把握しておく必要があると考える。ピアノ技能を習得させるという目標に近づくための最適な学習法を提供できると考えるからである。

### 4. 保育者養成課程におけるピアノ技能の習得の学習法に関する課題

保育者養成課程では、ピアノ演奏の経験がさまざまな学生の中でも、特に初心者への教授法がこれまでも多数研究されてきた。兎束(1996)や泉谷(2006)により、Music Laboratory (ML) によるグループレッスンと個人レッスンの組み合わせによる効果が検討された。岩口(1995)による、弾き歌いの指導法による学生の自主的問題解決への試みもある。また、嶋田(1995)による、教材の精選と編成によるピアノ技能習得の有効性が検討された。システムや教材以外にも、初心者のピアノ演奏の姿勢に関する指導法をとりいれたプログラムも考えられてきた(森田他、2008)。しかし、柏瀬(1976)が述べているように、授業内容を充実させても、初心者に対して徹底した指導をするには現状のレッスン時間では十分とは言えないのが、養成校の共通の問題である。そこで、限られた授業時間でピアノ技能を習得させるために、自主学習を充実させることが有効ではないか考える。従来の自主学習の時間や内容は、個人の環境やペースにまかされており、授業で練習方法を明確に提示していない。学生が自主学習で、適切な練習方法を採択して

取り組むことができれば、ピアノ技能の習得がより効率的になるのではないだろうか。個人の意欲や努力に関して、泉谷(2000)は、ピアノ技能の習得や読譜力にはかなりの個人差があるため、それぞれのレベルや進度を踏まえた音楽科目の授業の形態が必要である。特に技能に関しては、ある程度習得するためには反復練習が不可欠であり、個人の努力に負うところが大きい。そのため学生の自主性や努力を促し、それをサポートするカリキュラムが必要であると述べている。

そこで本研究では、保育者養成課程でのピアノ技能習得に有効な学習法を検討する。まず、保育者養成課程の学生が目指すところの、保育者に必要とされるピアノ技能が何であるかを明らかにするための調査を行うことにした。

## II. 調査1 保育士に必要とされるピアノ技能に関する調査

### 1. 目的

保育者に必要とされるピアノ技能は何であるか、保育者が保育現場でどのようにピアノ技能を生かしているかについて、保育現場の教員を対象に調査した。

### 2. 方法

本調査の対象者は、中部学院大学付属幼稚園2園・保育園1園の、3園の教員32名とした。実施時期は2010年8月であった。調査の内容は、「保育現場でのピアノの技術的課題」を骨子とした質問紙(資料1)を配布した。

### 3. 結果と考察

調査の全対象者が現場でのピアノ演奏技能を「とても重要」、「重要」と答えた(表2)。重要と答えた最も多い理由の1つは、「日々の歌の伴奏でピアノを弾く機会があるから」であった。ピアノ技能の重要さは、活用頻度の多さと関係していると言える。日常の生活の中や、発表会などの行事にピアノ演奏は欠かせない楽器であることが分かった。

表2. ピアノ演奏技能の重要性について

とても重要である	19人
重要である	13
あまり重要でない	0
重要ではない	0
その他	0
計	32

また、重要と答えた最も多い理由のもう一つの「保育者のピアノや歌が楽しいと、子どもたちもリズムにの

り楽しく歌っている。コミュニケーションが取れる。」であった。それは、ピアノが、同時に多くの音を鳴らすことができることや、伴奏とメロディーを同時に演奏できることにより、他の楽器に比べて多様性に富んでいるため、保育の楽しさを演出することができると思われる。「豊かな情操をはぐくむことに欠くことができない」や「子どもたちの生活や遊びをより充実させるためには必要不可欠である」などの意見も多数あった。このことから、子どもの充実した成長にピアノ演奏の効果は大きいと考えられる。「歌いたいと思ったときにすぐ歌えるから」や「ピアノの伴奏だと、部分で止まりながら教えることができる」「CDと違い、子どもの動きに合わせて変えることができるのが、ピアノのメリットだから」からは、ピアノという楽器の応用力にも注目されている。

また、「重要である」とした理由に、「自分がピアノに自信が無いので、より重要だと感じる」や「発表会や運動会では特にこどもを引き立てるような演奏を短期間で仕上げなければいけないため」という、保育者自身が一層のピアノ技能を向上させるということが課題であるとする教員もいた。

表3. ピアノ演奏技能が重要とした理由(複数回答)

保育者のピアノや歌が楽しいと、子どもたちもリズムにのり楽しく歌っている。コミュニケーションが取れる	6人
日々の歌の伴奏でピアノを弾く機会があるから	6
音楽が流れると子どもたちも自然に体が動き出し、楽しむことができるから	5
子どもたちの生活や遊びをより充実させるためには必要不可欠である	4
ピアノの音で子どもたちの意識を集められる	4
CDと違い、子どもの動きに合わせて変えることができるのが、ピアノのメリットだから	3
豊かな情操をはぐくむことに欠くことができない	3
発表会や行事で必要となっている	2
子どもたちもうたが大好きだから	2
いろいろな歌を伝えたい。歌いたいと思ったときにすぐ歌えるから	2
発表会や運動会では特にこどもを引き立てるような演奏を短期間で仕上げなければいけないため	1
少し時間が空いた時に、歌を歌ったりリズム遊びをすることができるから	1
音のある時間はとても深く充実すると感じる	1
上手に弾けることにこしたことはないが、譜面がある程度読めて、ある程度弾ければ子どもたちはちゃんと歌ってくれる	1
複数で受け持っているクラスの場合、役割分担して良く弾ける先生に任せられる	1
ピアノ演奏技能が高まれば、保育を受ける子どもは幸せである	1
ピアノの伴奏だと、部分で止まりながら教えることができる	1
自分がピアノに自信が無いので、より重要だと感じる	1
生活のメリハリに有効だから	1
計	46

以上の理由から、ピアノ技能は子どもと保育者自身の充実した園生活には欠くことができないものであることが分かった(表3)。自分が問題と感じている内容としては「ピアノの練習量の確保(練習不足)」が一番多かった。「重要」であるがゆえに、保育者になった後もピアノ練習を継続する必要があると考えているようである。また、回答はピアノ技能の個々の課題に言及している。「楽譜を読むことが難しい」「楽譜をみてリズムが理解しづらい」という意見から、新しい曲への取り組みの困難さを自覚しているようである。他にも、保育者個々のピアノ技能レベルによるさまざまな問題が出されたのではないかと考える(表4)。

今回の調査では、3箇所の保育機関の教員を対象におこなった。今後は対象の範囲を広げ、多くの保育機関の教員に対して、保育者に必要とされるピアノ技能を調査し分析することが必要である。また、幼稚園と保育園での保育者に必要とされるピアノ技能の違いを見るために、幼稚園と保育園に分けて調査する必要もあるかもしれない。

表4. 日頃の音楽活動で感じる自分の問題

ピアノの練習量の確保(練習不足)	5人
楽譜を読むことが難しい	3
楽譜をみてリズムが理解しづらい	2
季節・あそびの曲のレパートリー	2
楽器全般の技能が必要	2
新しい曲で、テンポの速い曲の演奏が困難	1
ピアノの技術不足	1
音楽分野をもっと詳しく勉強したい	1
アレンジ能力	1
新曲の完成が困難	1
右手のメロディーを正確に弾くこと	1
伴奏(左手)のアレンジ能力	1
ピアノの音自身で遊びができる表現能力	1
子どもを見ながらピアノを弾くこと	1
新しい曲になかなか挑戦できない	1
曲の盛り上げ方が分からない	1
ワンパターンなレパートリーになってしまう	1
無回答	6
計	32人

#### 4. まとめ

以上から、ピアノ技能は保育活動に欠かせないことが分かった。保育者のピアノ技能は、子どもの反応や保育内容が豊かになることを期待されている。そのために、保育者は、楽譜を正確に読むことや、レパートリーが豊かであるという、安定したピアノ技術を持っていることが重要である。そのピアノ技術を、保育の現場で広く応用でき、子どもたちの豊かな表現を引き出す手段に活用できるというピアノ技能に結び付けていくことが大切である。ピアノの基礎技能や音楽の楽しさや感性は、保育



現場に出る前の養成課程で構築することが望ましいと考える。養成課程のピアノ技能のあり方を考えるために、まず入学時のピアノ技能の状態を知っておく必要がある。

### Ⅲ. 調査 2 保育者養成課程1年生のピアノ技能の実態について

#### 1. 目的

調査1で、保育者に必要なピアノ技能が明らかになった。保育者養成課程では、学生のピアノ技能を短期間で保育者に必要な技能に高める指導法が求められている。そのためには学生のピアノ技能の実態を把握する必要がある。そこで、幼児教育学科1年生の入学時のピアノ技能の実態について、調査することにした。

#### 2. 方法

調査の対象者は、中部学院短期大学部幼児教育学科1年生105人全員とした。実施時期は2010年5月であった。調査の内容は、「ピアノに関する経験と技能」を骨子とした質問紙(資料1)を配布した。

#### 3. 結果と考察

1) ピアノ経験について 幼児教育学科1年生105人のうち、ピアノ演奏の未経験者は32人であった。経験があると答えた学生の中でも、バイエル未終了者は28人であった。バイエルはピアノ技能習得の基礎教材であり、初心者への導入で使用されている。バイエル使用の是非は、嶋田(1995)の述べたように長年議論が続いているが、バイエルを初級者の教材として位置づけ、基礎技能の習得は、まずはバイエルを終了できることを目安とした。したがって全体の57.2%が、ピアノ技能の初歩の状態であると言える(図1)。

2) 読譜力について 楽譜の音名とリズムの理解力については、「音名とリズム両方をほぼ理解している」が24.8%であった(図2)。つまり75.2%の学生は、音名か、リズムの理解が不足していると言える。音名とリズムの理解力は、読譜をするための重要な技能である。ピアノ技能の初歩の状態では、この読譜力が不足していることが分かった。小林(1988)は、読譜しながら演奏する能力があるというのは、楽譜を早く、しかも曲の中身まで理解しながら読んでいくということと述べている。読譜力が不足していると、楽譜の情報が正しく演奏に反映されない。また、曲の完成に時間がかかる。すなわちピアノ技能の習得の効率が良くない。

3) ピアノ技能習得への意欲について 「ピアノ技能習得に意欲的に取り組んでいるか。」という質問に対し、「意欲的」「まあまあ意欲的」との回答が73.3%で

あった。「苦痛」とする回答はなかった(表5)。演奏技術や読譜の困難さなど、ピアノ技能の習得の問題は多いが、学生は前向きに取り組む姿勢がみられる。泉谷(2000)は、ピアノ技能に関しては、ある程度習得するためには反復練習が不可欠であり、個人の努力に負うところが大きい。そのため学生の自主性や努力を促し、それをサポートするカリキュラムが必要であると述べている。指導する側は、練習法の個別対応を工夫することで、個人の努力ややる気を支援する必要がある。

#### 4. まとめ

本学の学生の半数近くがピアノの初心者で、ピアノ技能に課題が多いことが分かった。宮脇他(2006)は、学習者が自分自身の弱点を自ら見つけ出し、自発的に効果のある練習を取り入れ、演奏力の強化が自らできるのが経験者であると述べている。ところが、初心者は、自分自身のピアノ技能における弱点に気づかず、どのように練習をすれば演奏の困難さを克服できるかが分からない。特に、指導者の目が届きにくい自主学習の内容がピアノ技能が向上を左右すると考える。ピアノ技能習得に意欲的と答える学生が多いことから、学生は日々継続されている自主学習の内容の検討が必要であろう。そのために、まず学生が自主学習でどのような練習をしているかを調査する必要があると考えた。

表5. ピアノ練習の取り組みについて

意欲的	20人(19.0)
まあまあ意欲的	57 (54.3)
あまり意欲的でない	22 (21.0)
苦痛	0 (0.0)
無回答	6 (5.7)
計	105 (100)

( )内の数字はパーセント(%)

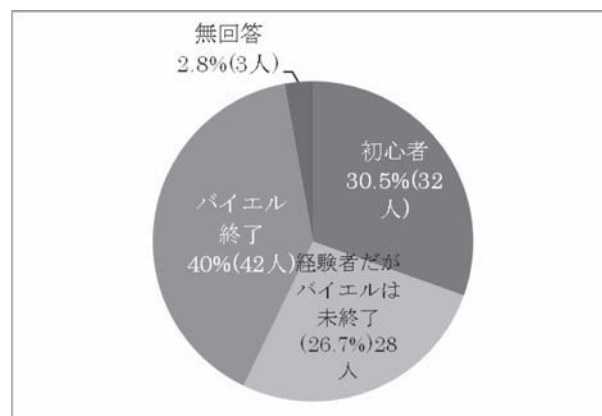


図1. ピアノ演奏の経験について

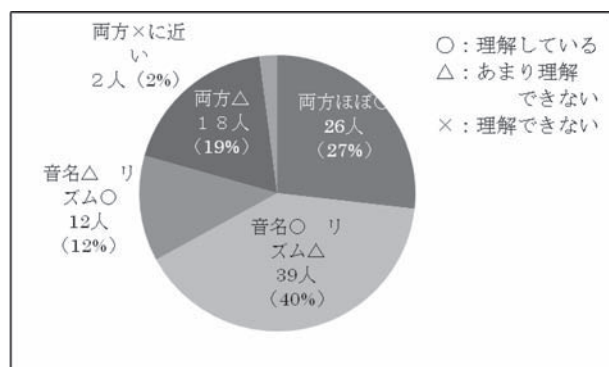


図2. 音名とリズムの理解力について

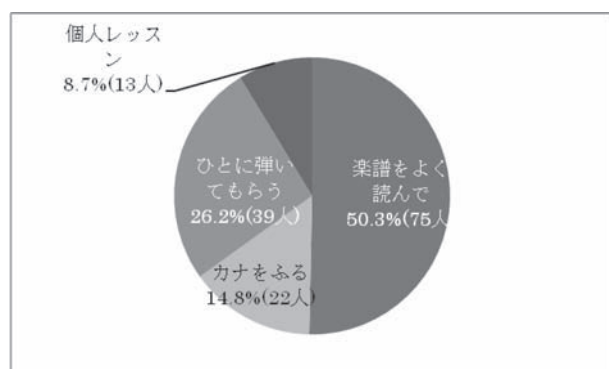


図3. 新曲の練習方法 (複回答)

#### IV. 調査3 ピアノの学習方法の実態

##### 1. 目的

ピアノ技能の指導方法は、学生の日頃の練習環境や経験にできるだけ対応したものであることが望ましいと考え、学生の日頃の練習の実態について調査した。特に、自主練習における新しい曲の理解と、演奏の完成に至る経過も調査した。

##### 2. 方法

調査2と同様とした。

##### 3. 結果と考察

1) ピアノの練習方法について 新曲の取り組み方について質問した結果、「楽譜をよく読んで弾く」が50.3%であった(図3)。ピアノの練習は、初めに楽譜に表してある情報を正確に読譜し、音として再生する方法を用いるが、半数の学生が、このような正しい練習方法で取り組んでいることが分かった。「ひとに弾いてもらう」の26.2%と、「カナをふる」の14.8%については、調査2で明らかにされた読譜力が不足していることが影響していると考えられる。学生は、読譜力の補助的方法として、ひとに弾いてもらうという聴覚的イメージと、カナを書き込んで読むという視覚情報を必要としていることが分かった。しかし、音符にカナを書き込むことは、音符そのものよりカタカナを読

んでしまい、読譜能力が育たないという悪循環になると思われる。宮脇(2006)は初心者の特徴として、楽譜の音がピアノの鍵盤と一致しないことを指摘している。また、楽譜に音名をカタカナでルビのようにふったり、黒鍵の音に印をつけるというような、ピアノの練習における最悪の道を選びやすいことも指摘している。やはりルビに頼らず音符そのものを認識できる読譜力を習得する指導法の提供が急がれる。「ひとに弾いてもらう」は、楽譜の視覚情報に聴覚的イメージの補助が加わる。学習方法として森本・三宅(2009)は、二重コード化説(Pavio, A 1986)により、視覚情報とイメージを連結させ記憶させることの有効性を明らかにした。楽譜情報と再生音情報の両面で読譜することにより、楽曲の理解が高まると考えられる。しかし、聴覚的イメージに頼る学習は、間違いの防止や新しい曲の仕上がりを速くすることはあっても、読譜の力を向上させるとは限らない。高御堂(2010)は、新しい曲を自分で読譜しないで、CD、MD、TV等でピアノ曲を学習する学生が、リズム課題に合格しない傾向を示すと報告した。このことから、聴覚的イメージは読譜力を養うための補助と位置付けるように注意を払うことが大切かもしれない。

2) 音の誤読について 「新曲の読譜の間違いで困った時があるか」という質問に、80%の学生が「よくある」「時々ある」と答えた(図4)。自主学習において、1)で述べたピアノ学習での補助的方法がいつも活用できるわけではない。理解できない時に直ちに訊ける人がいるとは限らないからである。むしろ、理解できないまま諦めて放置してしまうことや、間違った練習を続けて、レッスンでの指摘にとまどうケースを指していると思われる。一度習得した演奏の間違いの修正は困難で、練習への不安や苦手意識に結び付くかもしれない。また、教員から音楽性について学ぶことができるレッスン時間を、間違いの指摘や新曲の音を教わるだけに終わってしまうとすると、学生はピアノの素晴らしさや音楽の楽しさを学ぶ機会を失うことになる。ピアノ技術を習得する際に、弱点の克服とともに、苦手意識の払拭や練習への意欲低下も、解決すべき課題のひとつと考える。

3) 練習方法について 84%の学生は、片手ずつの練習や部分練習から始めていた(図5)。「初めから両手」「部分練習しないで通して練習」と答えた学生は16%であった。ピアノ演奏では、右手と左手は等しく重要である。左右の手は、独立した動きと、音楽的表現が求められている。田村(1990)は、ピアノは、無器用な左手も器用な右手と同じように弾けなくてはならない、左右別々のテクニックを使う練習はなかなか難しいと述べている。それぞれの手の動きが安定するまで、まず片手でよく練習しなければならない。学生は、片手練習の必要性を意識していることがわかつ

た。また、部分練習とは、曲の中で苦手な場所を何度も練習することである。ピアノ演奏は、初めから最後まで間違えずに弾くことが重要である。途中で間違えたり、つまづくことによって、ピアノ演奏の完成度が下がる。調査1の保育者に必要なピアノ技能として、子どもの歌の伴奏があった。歌の流れを止めることがない演奏が求められている。ほとんどの学生は、曲の完成度を上げるために苦手な部分を反復する練習法が必要と感じていることが分かった。

#### 4. まとめ

本調査で、ピアノ技能を妨げる学生の練習方法の問題点が明らかになった。片手ずつの練習や部分練習を8割以上の学生がおこなっていることから、ピアノ技能の向上には、反復練習が不可欠であり、個人の努力に負うところが大きい(泉谷2000)と、学生自身が感じているからであろう。また、半数以上の学生が、楽譜をよく読んで弾くという練習を心がけていることから、読譜しながら演奏する能力をつけることの必要性も感じているからであろう。このように、意欲的に取り組んでいるピアノ技能の習得ではあるが、調査2で明らかになった読譜力の不足が問題であると考ええる。80%の学生が読譜の間違いで困った時があるとの結果は、今までに読譜力向上の指導方法が十分になされていなかったからかもしれない。

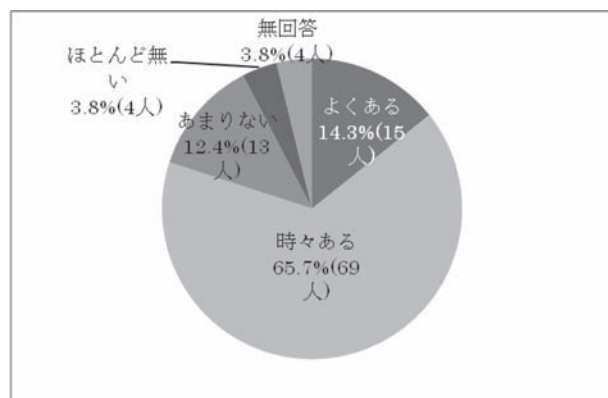


図4. 新曲の読譜の間違いについて

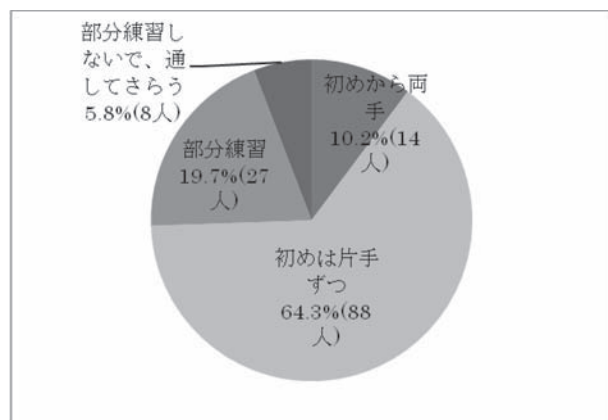


図5. ピアノ練習方法について(複数回答)

## V. 全体的考察

### 1. 保育者養成課程のピアノ技能の課題

本調査で、保育者にとってピアノ技能は重要であり、保育者に必要なピアノ技能が明らかになった。それはピアニストの演奏ではなく、保育者として子どもとの関わりをより豊かにするピアノ技能であった。保育現場の保育者は、自分のピアノ技能をまだ十分ではないと自覚し、一層のピアノ技能の向上のため努力し続けている。このように、ピアノ技能の習得は、保育者養成課程の期間からさらに続く学びであった。保育者養成課程に入学する学生のピアノ経験度はさまざまであり、ピアノ技能は初歩の段階の学生が多い。入学後、保育者にはピアノ技能が重要であることを自覚してからは、学生は意欲的に練習を行っている。保育者になった後まで努力し続けなくてはならないピアノ技能に対して、養成課程で行われるべき学習法として、以下の2つが重要と考える。1つには、読譜しながら演奏する学習法である。保育の現場では、多様な場面でピアノ演奏が用いられている。未知の曲を演奏する場合、曲を早く理解し、演奏の仕上がりの効率を上げるために、読譜した情報を演奏に反映する能力が必要だからである。2つめは、片手練習や部分練習が適切に行うことができる学習法である。演奏の仕上がりの効率をあげるためには、演奏の苦手な部分を解消する練習が必要である。保育者として現場で働き始めると、練習時間や人に尋ねる機会が減少し、自分でピアノ演奏のピアノ技能を向上させなければならない。ピアニストがピアノ技能を向上させる条件として永富(2007)は、適切な練習により正しい基本奏法を身につけ、自分の演奏を注意深く観察することが、短い期間でも確実に向上させるための必要不可欠の条件となると述べている。保育者養成課程でもピアノ技能を向上させる条件として、自分の演奏を注意深く観察し、技能を改善させる能力の習得であろう。学生が養成課程で学んだピアノ技能やピアノの練習方法を保育者となった後まで生かせるような学習法の考案が重要と考える。

### 2. 今後の課題

保育者養成課程での授業では、ピアノ技能の習得が効率よくおこなえる指導法が実施されている。しかし初心者は、教師の指導から離れる自己学習において、自分自身の演奏の観察や課題の発見が困難になりがちである。今後の課題として、初心者の自己学習における効果的な学習法を検討したい。マルチメディア機器の活用もその1つと考える。従来の紙の楽譜に、機能を追加した電子楽譜は、ピアノ技能の学習方法の可能性が一層広がるのではないかと感じる。Information Technology (IT) の発達という社会背景の中で成長してきた現在の学生は、ゲームやメディア(情報媒体)に大変関心が高い。抵抗感なく最先端マルチメディア機器を使いこなし



活用すると考える。しかし、中島(2007)は、マルチメディア機器の活用の注意点を次のように述べた。マルチメディア機器は、その形態を作り出すことが最終目標とされるのではなく、その形態を利用することが最終目標とされなければならない。と述べている。佐伯(1986)はマルチメディア機器の理論として、人間と機器の関係の整備を説いている。便利さを享受するためだけではなく、学習者主体に学ぶことができる機器の利用を視野に入れるべきであろう。

## ＜文献＞

- 1) 東ゆかり・岡本美智子(2000)保育士養成における「音楽」の指導法の一考察. 保育士養成研究, 18, 19-28
- 2) 泉谷千晶(2000)保育者養成校の「音楽」の視点と総合的な授業展開の試み. 青森明の星短期大学紀要, 26, 1-19
- 3) 泉谷千晶(2006)初心者のためのピアノ・グループ指導の研究. 青森明の星短期大学紀要, 32, 25-40
- 4) 井上智義(1999)視聴覚メディアと教育方法Ver.2. 北大路書房, 125-155
- 5) 井上直幸(1998)ピアノ奏法－音楽を表現する喜び. 春秋社, 16
- 6) 岩口摂子(1995)弾き歌いの技術を自主的に高めるための指導について. 日本保育学会第研究大会発表論文集, 48, 652-653
- 7) 兎束淑美(1996)器楽指導における一つの試み2. 上田女子短期大学児童文化研究所所報, 18, 46-61
- 8) 小倉郁子(2010)人を育てるピアノ学習. 宇都宮短期大学音楽科研究紀要, 17, 149-156
- 9) 大浦容子(1987)音楽と認知. 東京大学出版会, 69-95
- 10) 大谷純一他(2004)今日の保育者養成校における音楽教育に関する一考察－幼稚園側の要望を手がかりに－. 日本保育学会第57回研究大会発表論文集, 562-563
- 11) 柏瀬愛子他(1976)教員養成課程をもつ大学における音楽教育の一考察(3). 名古屋女子大学紀要, 22, 209-214
- 12) 菊地政隆・菰田孝行(2005)保育実技に対する現任保育者の意識. 聖徳大学児童研究所紀要, 7, 85-88
- 13) 木村貴紀(2009)バイエルの使用から浮かび上がる音楽教育法のあり方. 共栄学園短期大学研究紀要, 25, 165-176
- 14) 小林仁(1988)ピアノの練習室. 春秋社, 6, 152
- 15) 佐伯胖(1986)認知科学の方法. 東京大学出版会, 210
- 16) 嶋田由美(1995)保育者養成におけるピアノ教育1. 日本保育学会回研究大会発表論文集, 48, 644-645
- 17) 新海 節(2008)保育士及び幼稚園教諭養成校のピアノ指導における一私見. 帝京大学紀要, 15, 1-8

- 18) 杉山祐子他(1988)MIDI規格対応キーボード、及びマイクロコンピュータを用いた演奏評価システム. 全国音楽教育学会研究紀要, 1, 1-10
- 19) 田村安佐子(1990)ピアニストへの基礎. 筑摩書房, 103
- 20) 高御堂愛子他(2010)保育者・小学校教員を目指す学生のリズム読譜能力について. 全国大学音楽教育学会 研究発表集, 40-41
- 21) 中部学院大学キャリア支援センター報告, 2010
- 22) 永富和子(2007)こうすればピアノは弾ける. 学習研究社, 7-101
- 23) 中島義明(2007)情報の人間科学～認知心理学から考える. コロナ社, 206
- 24) 野島久雄(1996)コンピュータと教育. 市川伸一・伊東裕司編著「認知心理学を知る」, 第14章, ブレーン出版, 159-171
- 25) 橋本鈴枝(1984)F.Clark,L.Goss.によるピアノ教程の考察. 横浜国立大学教育紀要, 24, 265-287
- 26) 平松愛子(2010)通信教育保育科に在籍する学生へのピアノ指導における現状と課題. 全国大学音楽教育学会研究発表集, 42-43
- 27) 古川美枝子(1999)基礎技能音楽のカリキュラムに関する一考察(2). 日本保育学会大会研究論文集, 52, 910-911
- 28) 丸山京子(2003)保育者養成における音楽指導の一考察(IV). 岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要, 35, 29-38
- 29) 宮脇長谷子他(2006)基礎技能(音楽)における技術指導についての一考察. 静岡県立大学短期大学部紀要, 20, 1-13
- 30) 森田千智他(2008)初心者に対するピアノ演奏姿勢の指導法を求めて. 岐阜女子大学紀要, 37, 51-60
- 31) 森本信也・三宅勇輝(2009)子どものイメージから構想する「音」についての科学概念形成とその理科学習論的考察. 日本科学教育学会研究報告, Vol. 24 No.3, 69-72

## ＜資料1＞保育者用質問用紙

①現場の活動で、ピアノ演奏技能は、重要ですか。  
以下から1つを選んでください。

☐とても重要    ☐重要    ☐あまり重要はでない  
☐重要ではない    ☐その他

②理由をお書きください。

③先生ご自身が日頃の音楽活動で課題だと感じていることがありましたら教えてください。(記述式)

<資料2>学生用調査用紙

2010. 音楽Ⅰに関する質問

\*学籍番号

\*音楽Ⅰの集団クラスに○

( 安田 / 山川 / 岡田・杉山 )

短大に入学して2カ月が経ちました。音楽Ⅰのピアノ実技の進行状況と、練習方法の把握を目的に調査させていただきます。集計目的以外には使用しませんので、率直な意見を聞かせてください。

1. 普段のピアノの練習量

- a ほぼ毎日弾く      b 週5日程      c 4日程  
d 3日程      e 2日以下

2. 1回(1日)の練習時間

- a 1時間以上      b 30分～1時間未満  
c 15分～30分未満      d 15分未満

3. 練習環境 (複数可)

- a 自宅ピアノ      b 自宅キーボード  
c 自宅では楽器無      d 短大練習室  
e その他(      )

4. 進捗について、以下の表に印をつけてください。

	受講カード (最初のレッスンで始めた曲に△、5/25(火)現在合格済みの曲全てに○)		
1	1. 2. 4. 6. 7. 11	6	55. 56. 57
2	15. 20. 21. 24. 26	7	62. 64. 65
3	27. 28. 29. 30. 33	8	67. 70. 72
4	37. 40. 47	9	74. 76. 78
5	48. 52. 54.	10	ブルグミュラー (      )
11	その他 (      )		

その他の曲:

5. 楽譜の音符は読めますか?

- a ほぼ読める      b ゆっくりなら読める  
c ほとんど読めない      d その他(      )

6. 楽譜のリズム(音符の長さの組み合わせ)は理解できますか?

- a 分かる      b なんとなく分かる  
c あまり分からない      d その他(      )

7. 初めての曲には、どんな練習方法をしていますか? (複数可)

- a 楽譜をよく読んで弾く  
b 楽譜にふったカナを頼りに弾く  
c ひとに弾いてもらいイメージをもつ  
d マンツーマンで教えてもらって弾く  
e その他(      )

8. 初めての曲には、どんな練習方法をしていますか? (複数可)

- a 初めから両手で練習  
b 初めは片手ずつ練習  
c 部分練習をする  
d 部分練習はしないで通してさう

9. 楽譜を誤認(音やリズムが間違っただけ練習)して、困ったことはありますか?

- a よくある      b 時々ある  
c あまりない      d ほとんどない  
e その他(      )

10. あなたは現在、ピアノ技術習得が順調に進んでいると思いますか。

- a 順調      b まあまあ順調  
c あまり順調ではない      d ほとんど進んでいない

11. その理由は、何だと思いますか? 以下の項目で、具体的に書いてください。

- ・練習時間について
- ・練習方法について
- ・楽器など、環境について

12. あなたは現在、ピアノ技術習得に意欲的に取り組んでいますか?

- a 意欲的      b まあまあ意欲的  
c あまり意欲的ではない      d 苦痛

13. その理由はなんですか?

14. 自分にとって取り組みやすい練習方法は何ですか?

- a 楽譜を読みながら進める  
b 音を聴いてイメージして進める  
c 楽譜を読みながら音を聴いて進める  
d その他(      )

15. ピアノの上達に際して、困っていることがあったら具体的に書いてください。(返事必要なら質問番号に○)